

意見交流を通して、道徳の学びを深める

先生方の意見交流

付箋を使って



友達との意見交流

ICTを使って

ホワイトボード
を使って

対話を通して



意見の交流方法を工夫することにより
多様な考えに触れたり、自分が納得で
きることを見つけたりしながら、自分
自身と向き合って、自分自身の考えを
更に深めることができる。

体験学習を通して、道徳の学びを深める

地域の保育園を訪れて、家族への感謝や自分の成長
を実感し、自分の将来についても考えを深める。



「中学生のセルフマネジメント」の講演を親子で聴き、
親子で心のマネジメントについて考えを深める。



赤ちゃんを実際に抱っこすること
により、いのちについて考え、親
への感謝や思いを深める。



様々な体験学習を通して、自分自身と向き合う機会を得ることができ、道徳で学んだことが
生かされ、考えを更に深めることができる。

道徳科授業の工夫で道徳性を深める

ICTの活用

全員の考えを見える化

Googleフォームでアンケートをとる



Canva上で意見を共有

- ・電子黒板
- ・オクリンク
- ・Canva
- ・FigJam
- ・Win Bird
- ・教材提示装置 等

授業展開の工夫

- ・「対話」を意識した授業づくり（自己との対話・他者との対話・先哲との対話等）
- ・資料の提示方法の工夫（分割提示・長文教材を事前に読む・ペープサート等）
- ・役割演技や動作化、発問の工夫、授業の流れが分かる板書等 自分の考えを記

自分の考えを記載したタブレットを持ちながら、友達と対話

様々な「連携」で 道徳的实践を深める

青少年育成西桂町民会議と
連携したあいさつ運動



小中合同あいさつ運動



スクールガードとの連携



西桂子育てを支援する会
主催の音楽鑑賞会



町の農業委員さんとの連携



西桂中学校と合同で研究
○西桂町教育協議会

- ・授業研究部
- ・小中連携研究部
- ・調査研究部

3部会で研究推進

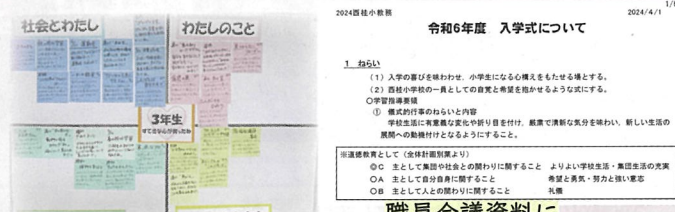
- ・地域、保護者、西桂保育所、西桂中学校と様々な「連携した活動」を行っている

教材吟味表の作成

一時間の授業内容を一枚のシートで表し、道徳的価値をどこで理解させるか等を図式化したシート

[illegible]

学校教育全体を通した道徳教育
の意識化で道徳性を深める



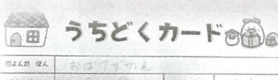
「すてきな心が育ったね」の掲示

職員会議資料に
育てたい道徳性を記載

読書活動（図書室の取組）で
豊かな情操を深める



全校児童と教職員が
取り組んだPOPコンテスト



多くの子供たちと
保護者が取り組んだ「家読」

- 家読（年2回）
 - 図書委員の読み聞かせ
 - 教職員の読み聞かせ
 - 月1回はイベント開催
 - ・8時に雨が降っていたら3冊貸出（6月）
 - ・開館日に使える「プラス1チケット」（夏休み）
 - ・図書委員が作った「しおり」をゲットしよう（9月）
 - ・POPコンテスト（10月）
 - ・わくわくスタンプラリー（2月）
- 等

生徒同士の議論で学びを深める

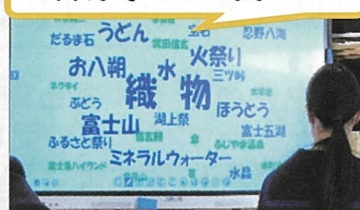
ICTを活用した
対話的な学び



「議論する道徳」の授業づくり



自分事として捉える

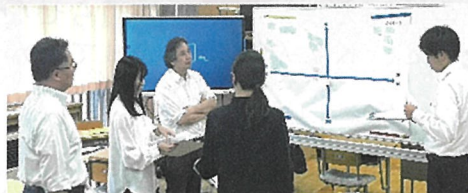


自らを振り返る

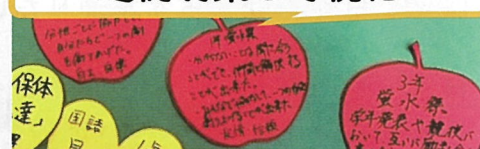


教職員同士で道徳教育を深める

校内研究
講師招聘
模擬授業
西桂町教育協議会



道徳別葉を可視化



道徳模擬授業



校内研での指導案検討



黄:教科 緑:特活 赤:成果

生徒と家族・地域とのつながりを深める

八十八大師前掛けづくり



桂川公園清掃活動



植林活動



町あいさつ運動



家族からの手紙



西桂町新庁舎竣工式参加

主体的なあそびを展開することで、子ども達の関わりを深める

「いーよ」 (2024秋、ある日の保育記録から)

年中児のクラス自由遊びでの場面。Hくんが怒ってKくんを押している。おままごとコーナーでバケツの間に座っているKくんと、車でその間を通ろうとしているHくんがトラブルになっていた。



- Hくん(以下H) : 通らせて！
Kくん(以下K) : やーだ、ここKくん使ってる
H : やだ！通りたい
K : やだ
保育者(以下保) : どうしたの？
H : Hくん、ここのトンネルをくぐりたいの(バケツとバケツの間をトンネルに見立てている)
保 : そうなんだ、Kくんに『通ってもいい？』って聞いてみたら？
H : 通ってもいい？
K : だめなの(だんだんバケツの間隔を狭めて絶対に通らせないようにする)
保 : Hくんはこっちを通りたいけど、Kくんは先に使ってたから、ここに座ってたいんだって
H : やーだー
K : こっちならいいよ(別のバケツとの間を通ることを勧めるKくん)
保 : Hくん、こっちならいいって
H : ちがう！こっちだところ、曲がっちゃうの！
保 : Kくんは、どうしてだめなの？
K : Kくんここで、SちゃんとTちゃんとたこ焼きパーティーするの
保 : そっか～
K : こっち通ればいいじゃん！(別のバケツとの間のスペースを指しながら)
H : やだ！こっち！
保 : Sちゃん～どうしたらいいかな～？
Sちゃん : えっとねー、2人でちゃんと話した方がいいと思う！ばーんってしたり、壊したりしたら悲しいから
保 : そうだね、じゃあ2人で話してみようかー
(その後保育者がHくんとやり取りをしているうちに、少しずつ座っている場所を移動し始めるKくん)
K : いーよ
保 : えっ
K : 通っていーよ
保 : 通っていいの！？ありがとう～！
H : ありがとう！



HくんとKくんの気持ちを保育者が代弁しつつ様子を見たが、なかなか話が進まなかった。少し気分が変わるとよいなという思いもあり、Sちゃんに話を振ったが、そのことをきっかけにして急に話が進展した。振り返って考えてみると、保育者は平等な声かけを心がけていたものの、無意識に抑制的な力が働いてKくんが「自分は悪くない」というような心理になってしまったのかもしれない。またKくんは仲の良いSちゃんからの助言だったからより心に響いたのかもとも感じた。同じ目線にいる友達からの声かけが、内容的に違いはなくとも、より子どもの心に寄り添ったものを感じられるのも事実なのだろうと思うと、保育者の役割についても考えさせられる。

食杜北杜で地域とつながりを深める

2018年度より、「食と農を活かした住み続けられるまちづくり推進プロジェクト」として北杜高校、北杜市役所、市内事業者の産・官・学で連携し、北杜市の自然が育んだ素材や原材料を使用するなどして、商品開発を行っています。また、株式会社裕源様とのご縁もあり、台湾でのインターンシップも行い、地域の方との触れ合いの中で、社会に貢献することのできる人づくりに努めています。



<職業理解を深める！商品開発へ>

今日のルール

- ・参加者はみんな対等
- ・発言はコンパクトに（1分以内）
- ・今日話し合ったことは他言無用
- ・相手を頭から否定・非難しない
- ・人の話をさえぎらない
- ・グチや文句を言わない
- ・「どうせうまくいかない」は禁句
- ・質より量を重視しよう！量が質を生む
- ・やるからにはみんなできるとことん楽しもう！



ワークショップのはじまりは、アイスブレイキング

頭も体もほぐして、良い案をみんなが出せますように。

～生徒感想～

- 事業者さんともっと仲良くなり、コミュニケーションをみんながとれるようになることで、もっとアイデアを出すことができるので、みんなで楽しくやっていきたいです。
- 企業さんへの自己紹介をすることでその後の話合いがしやすくなった。そのあとのブランディングシートをもとに話合いをして、たくさんの意見が出て良かったと思う。



ワークショップの最後は、班のまとめを発表！

<社会とつながりを深める！自分たちが考案した商品の販売活動へ>

生徒が開発した商品をオンラインショップや販売会で販売するための方法やマナーを学ぶ実践の場



～生徒感想～

- 自分たちの作った商品の魅力をお客様に伝え、興味をもってもらえたことがよかった。
- 事業者さんと一から真剣に開発したので、見た目だけでなく味わいにも注目してほしいと思って接客をした。興味をもってもらえるようにどのように接客するかが難しかった。

本校は、富士川のほとりに立地する、平成12年に開校した、小・中学部を設置する知肢併置の特別支援学校です。本年度は、小学部9名、中学部7名の児童生徒が在籍しています。

令和5・6年度は、「特別の教科 道徳」の指導について、両学部で校内研究を行っています。

道徳的な指導についての理解を深める！

「知的障害の児童生徒に対する道徳教育実践 ～『合わせた指導』の中での授業づくり～」



令和5年度 特別の教科 道徳の現状や課題を把握

各教科や特別活動などを合わせて、実的な内容で指導をする「各教科等を合わせた指導」。知的障害の児童生徒に効果的とされ、本校でも「日常生活の指導」「遊びの指導」「生活単元学習」などとして指導しています。特別の教科道徳もその中で指導することとしていますが、位置付けは明確ではありませんでした。

本校の道徳的な指導の現状はどうか？

どの内容を重点的に扱う？

どの授業に位置付けよう？

知的障害の道徳に着目した実践例は少なく、指導が不安。

○令和5年度の校内研究で確認された次年度の実践研究に向けた方向性

- ・「人とのかかわりに関すること」を重点とし、「遊びの指導」で扱ってはどうか。(小)
- ・「集団や社会とのかかわりに関すること」を「生活単元学習」で扱ってはどうか。(中)

令和6年度 授業実践で検証

「遊びの指導」(小学部)
「中華屋さんごっこ」

料理人やお客になりきって遊ぶ中で、遊びの場や遊具を共有して遊んだり、順番や約束を守ったりすることをねらいました。「これください」「どうぞ」と、注文や料理を提供するやりとりで、相手を意識している姿が見られました。



「生活単元学習」(中学部)
「大昔の人の暮らし」

縄文クッキーを作る活動を通して、協力することやきまりを守ることをねらいました。二人組での活動を継続的に取り入れたことで、スムーズに協力したり、苦手意識のある相手とも気持ちをコントロールして活動したりする姿が見られるようになりました。



道徳的な面から授業を見つめ直せた。

やればやるほど難しさを実感。

順番を「待つ」とは何だろう？

道徳的な指導をするタイミングは偶発的。

実際に授業の様子から検討することで、道徳そのものや指導の仕方への理解が深まり、漠然とした不安や悩みが明確になった。

○校内研究で確認されたこと

- ・教師が道徳的な視点をもつことで、「順番を待つ」「ペアで活動する」などの場面も、有効な指導場面となる。
- ・「合わせた指導」の授業の中で道徳的な指導をすることはできるが、道徳的なことをねらいすぎて授業そのもののねらいが揺らがないよう注意する必要がある。
- ・授業場面と共に学校生活全体を通して指導することで、児童生徒の道徳的な力が高まる。

繰り返し取り組み、意識を深める！ あいさつ運動

毎学期1週間ずつ、中学部が中心となり実施しています。初めは相手を見ずに挨拶していた生徒が、だんだん顔を見て挨拶できるようになったり、スムーズに挨拶を返せるようになった児童がいたり、継続的に取り組むことで成長が見られました。



しなやかな心の育成講演会

様々な分野で活躍する地域の方を派遣し、児童生徒のしなやかな心を育成するために講演会、学習会を実施しています。

令和6年度実施例

講演題：「自分の心に気づく」

- 県内出身の大学教授を招き、自己認知と他者認知のギャップから来るストレスへの対応、セルフメンタルケアの方法等を学び、よりよい生き方について考える

講演題：「命の授業」

- 自分の人生を主体的に生きるために自分を取り巻く社会や自然・環境など様々な他者との「関係性」について歌を交えて学び、「いのち」の存在について考える

講演題：「命をいただく」

- 魚をさばく実演を交えながら、命をいただいて生きていること、命を無駄にしてはいけないこと、他者の命も大切にすることを実感し、命の尊さについて考える

あとがき

委員長 比志 保

「特別の教科 道徳」は7年目を迎え、「考え、議論する」授業が定着しつつあります。一方、コロナ禍の影響はまだ続き、行事の短縮、不登校やいじめの増加等の課題が山積しています。また人手不足や経験不足教師の増加、指導方法や評価も悩みです。

そうした中で、県教育委員会の「道徳教育研究推進校」には、3年間にわたり、授業づくりや評価、道徳的実践活動等について精力的に研究し、その成果を広く公開していただきました。推進校の先生方を始め関係各位に心より感謝申し上げます。

今年度は日本被団協がノーベル平和賞を受賞しましたが、戦争は人の心が深く関わっています。心は目には見えないだけに、心の教育、とりわけその中心である道徳教育が重要です。

道徳は人類の宝。本号のテーマは「深める」。「つばさ55号」がより多くの皆様に活用され、山梨の心の教育、道徳教育が更に深まることを願っています。

道徳教育推進会議

◎委員長

○副委員長

◎比志 保	元中央市教育長	○永田 真吾	山梨大学	保坂 三雄	チーフスクールカウンセラー
穴水洋一郎	富士幼稚園	花園 誠	山梨県PTA協議会	今井扶佐章	山梨県高等学校PTA連合会
山田 浩	東雲小学校	寺田 是	甲府西中学校	高野 真一	富沢小学校
渡部 一司	須玉中学校	高尾 良宣	西桂小学校	渡邊 徳彦	西桂中学校
梶原 満	都留第二中学校	渡邊 美穂	北杜高等学校	佐藤 実	わかば支援学校ふじかわ分校
山田 睦子	甲府市教育委員会	上野 中	生涯学習課	岩下 和子	峡東教育事務所
白倉 俊樹	中北教育事務所	有泉 満	峡南教育事務所	松永 二朗	富士・東部教育事務所
志村貴美子	総合教育センター				(敬称略)

つばさについて

「つばさ」バックナンバー

No.54

「つながる」道德教育



No.53

道德の評価について



No.52

道德の授業づくりについて



No.51

主体的・対話的で深い学びについて



No.50

道德科に生かす指導方法の工夫



No.49

道德教育・道德科の目標について



『つばさ』の由来
心身共に立派に育って、大空に巣立ってもらいたいという願いが込められています。

昭和57年度
(創刊号)

心の健康推進だよりとして、『つばさ』が創刊される

平成15年度
(第35号)
まで

いじめや登校拒否(現:不登校)、薬物乱用(シンナー等)
校内暴力等の課題への対応や家庭・地域・学校の連携の在り
方等について発信される

平成16年度
(第36号)

これまでの心の健康推進から道德教育を中心とした内容になる

平成27年度
(第47号)

学校教育法施行規則の改正を受け、「特別の教科 道德」実施
に関する内容が中心となる

平成30年度
(第50号)

『つばさ』50号発刊



TSUBASA (No.55)

つばさ55号

令和7年3月

問い合わせ先

山梨県教育委員会

義務教育課

TEL 055-223-1764

高校教育課

TEL 055-223-1766

特別支援教育・児童生徒支援課

TEL 055-223-1752